

金ヶ崎って、どんなところ？

金ヶ崎の未来像は、「人と地域が支えあうまち」。

若者が夢や希望を持てるまちづくり、

女性にとって魅力的なまちづくり、

活力と特色のある地域づくりを通じて、

笑顔で快適に住み続けられる町の実現を目指します。

町民のみなさんも、そのほかのみなさんも

この本を手にとって

金ヶ崎の自然や歴史を知り、

金ヶ崎に住み働く人たちの話を聞いて、

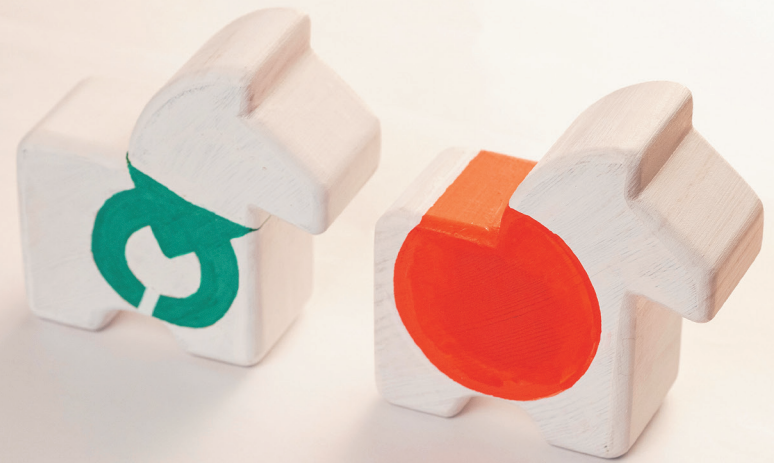
金ヶ崎の暮らしに興味を持ってもらえたり、

金ヶ崎をさらに好きになってもらえたら、

幸いです。

みんな  
の  
金ヶ崎

じまん





江戸時代にタイムスリップしたような非日常感

## 「伝建群」でおもてなし



1. 抹茶たて体験の様子
- 2-3. かつては造り酒屋だったという大沢松家。現在はレストランを営業(10時~16時、夜は要予約)
4. 金ヶ崎町観光協会会長で、大沢松家を管理する高杉郁也さん
5. 習字体験の様子
6. 着付け体験の様子

江戸時代、仙台藩の北端を守る防御の要としてこの地に置かれた「金ヶ崎要害」。この要害(城)と、それをとりまくように整備された武家町の姿を今に伝えるのが「国選定 金ヶ崎町城内諏訪小路重要伝統的建造物群保存地区」、通称「伝建群」です。

寄棟造の茅葺の侍住宅のほか、戦の際の防御に有効な鉤形や枡形の道路、ヒバやドウダンでできた生垣、エグネと呼ばれるスギの屋敷林などが、360余年前の時を経て江戸時

代にタイムスリップしたかのような風景を現代の私たちに見せてくれます。一部の住宅は公開されているほか、お茶や食事を楽しめるレストランとして営業しているところも。「着付け体験」「習字体験」「抹茶たて体験」「ひなまつり」や「お庭拜見」などのイベントも好評です。

小路に沿って美しく整えられた生垣、屋敷林の合間から覗く大屋根、さざめく木々の葉…。東の間の非日常感を味わってみませんか。



自然と触れ合う人気のアウトドアスポット

## 県内一の広さを誇る「千貫石森林公園」



1. 県内最大級の広大な森林公園
2. 「もりの学び舎」では、園内の植生や森に暮らす動物たち、森林の働きなどが楽しく学べます
3. 児童が楽しめるスペース
4. ファミリーやグループでの利用のほか最近話題の「ソロキャンプ」を楽しむ人も
5. 千貫石森林公園を管理する小澤賢さん

人の手が加わらないありのままの自然と、人の営みによって作られ守られてきた里山などの二次的自然がバランスよく共存する金ケ崎町。そんな金ケ崎の豊かな自然を気軽に楽しく体験できるのが「岩手県千貫石森林公園」です。森の植物や動物、森林の働きなどについて学べる「もりの学び舎」のほかキャンプサイトやバンガローなども備え、自然学習から散策、ドライブ、キャンプまで幅広く楽しめるアウトドアスポットです。

森林インストラクターと一緒に森を散策する「歩こう会」（年3回開催）や、冬の「クリスマスリース作り」は毎年好評のイベント。マザーツリーと呼ばれるアカマツの巨木や、市街地を一望する展望台、溜池をぐるりと囲む堤防などは撮影スポットとしても人気です。

春には桜、夏には深緑、秋には紅葉、冬には雪景色と、四季折々の美しさを見せてくれる千貫石森林公園。町内外の多くの人から愛されています。



1. 永岡温泉 夢の湯 大浴場
2. 千貫石温泉 湯元東館 露天風呂
3. 金ヶ崎温泉 駒子の湯 大浴場
4. 夢の湯 外観
5. 湯元東館 外観
6. 駒子の湯 外観

名湯ぞろい、体の芯から温まる癒しと寛ぎの温泉郷

## 岩手かねがさき温泉郷



奥羽山脈のふところ、金ヶ崎町内に点在する源泉かけ流しが自慢の3つの温泉施設を「岩手かねがさき温泉郷」といいます。毎分720リットルの湯量を湧出する「永岡温泉 夢の湯」は、自然に囲まれた静かな湯宿。バリアフリーの家族風呂があり、ご家族でゆっくりと寛ぐことができます。隣接の栗駒ゴルフ倶楽部は、自然の地形が活かされたバラエティー豊かな27ホールのコースで、プレー料金がお得になるバック料金が高評価です。アウトドア・アクティビティーを楽しむことができる1,000haの広大な千貫石森林公園を背景に風情ある竹まいが魅力の「千貫石温泉 湯元東館」。お湯はとろっとした肌触りで、湯

上りはしっとりすると評判です。森林公園で遊んで宿泊、あるいは早朝の森林浴を楽しみに宿泊いただくなど、気軽に大自然を満喫できる湯宿です。雄大な駒ヶ岳山麓のふもとに広がる酪農地帯に日帰り温泉「金ヶ崎温泉 駒子の湯」があります。ナトリウム塩化物泉が多く含まれている泉質で、体の芯から温まる心地がすると評判です。抽選会など日替わりイベントが大人気のお立ち寄りスポットです。いずれも東北自動車道のI.Cから15分ほどの立地で、まち歩きや旅行、ドライブの拠点として、また焼石連峰や夏油高原などでのアクティビティーにも好アクセスな温泉郷です。





田園風景や丘陵エリアの眺望を楽しむ人気のアクティビティ

## 金ヶ崎サイクリングコース



サイクリングコースHP

1. 田園地帯から丘陵地帯へと駆け抜ける見晴らしの良いコース
2. 駒ヶ岳など風光明媚な自然に囲まれた金ヶ崎町
3. 金ヶ崎の秋おすそわけライド参加者のみなさん
4. サイクリングの途中で金ヶ崎グルメで栄養補給
5. サイクルステーションは町内13か所に整備

金ヶ崎町では自転車を活用したまちづくりを進めており、北上川や奥羽山脈に囲まれた豊かな自然と、田園風景や丘陵地帯などの美しい景観を生かした3つのサイクリングコースを整備しています。1つめは町中心部の伝建群などをめぐる15kmのショートコース。2つめは自然豊かな酪農エリアをめぐる30kmのミドルコース。3つめは温泉施設での休憩や宿泊をしながら町全域を楽しめる40kmのロングコースです。いずれも陸上競技場やプールなどのスポー

ツ施設が集まる森山総合公園がスタート地点で、要所にはトイレや空気入れポンプの貸出等を行うためのサイクルステーションが置かれています。サイクリングマップは町のホームページからダウンロードが可能です。

令和3年10月には、旬のグルメや秋の景観を堪能できる自転車イベント「金ヶ崎の秋おすそわけライド」が開催され、町内外から多くのライダーが参加するなど、町ではサイクリングの盛り上がりに期待が寄せられています。



自然の恵みと個性あふれる、ここだけの味わいを

## 美味しさを満喫！ 金ヶ崎グルメ



2



1. 「カレーがさき」メニューの「エスニックカレー」と、町ご当地グルメの「金が咲バーガー」(撮影地: SUGOSUHITOTOKI)
2. 金ヶ崎町のお土産に「白糸ちゃんクッキー」
3. 「カレーがさきスタンプラリー」にも参加 高砂食堂「黄色いカレーライス」
4. 「牧草の丘」のジェラト
- 5-7. 珍しいお茶のお酒やハーブのリキュールを開発している金ヶ崎薬草酒造
8. 「カウベル」のジェラトとチーズ

金ヶ崎町内の飲食店では「カレーがさきスタンプラリー」(現在は終了)など、金ヶ崎グルメの魅力をPRする取り組みが行われています。「SUGOSUHITOTOKI」ではスパイスたっぷりのエスニックカレーが通常メニューでも楽しめます。

町産の新鮮野菜と奥州牛100%のパンを町産パンズで挟んだご当地グルメ「金が咲バーガー」も、「パン工房さかた」や「カフェレストランサバービア」で提供中。

お酒造りをトータルプロデュースする「金ヶ崎

薬草酒造」が開発、日本の素材で作られた「和ハーブリキュール 和花」と、食事と楽しむコンセプトのお茶のお酒「茶酒・桑ノ木田30」は金ヶ崎の新たな名物です。

丘陵エリアには新鮮なミルクを使ったジェラートの人気店が並びます。季節ごとの様々なフレーバーのジェラートや各種チーズが人気の「カウベル」や、ななつ星ミルクという貴重なミルクを使ったジェラートを提供する「牧草の丘」にお立ち寄りください。



岩隈大樹さん  
いわくまたいじゅん  
埼玉県出身。東京のシンクタンクに勤務し道路や河川工事の際の遺跡調査や記録の仕事に携わったのち学芸員の資格を取得。2014年より町地域おこし協力隊として勤務後、2019年に再移住。

どこにいても自分らしい生き方、働き方が出来る時代

## 多様な生き方を、次世代に伝えたい



2014年から金ケ崎町の地域おこし協力隊を務め、現在は築130年の古民家を改装したカフェ兼貸しスペース「古民家交流空間 永～TOKOSHIE～」(以下、永)を運営する岩隈大樹さん。金ケ崎での暮らしや移住と起業の経緯などをお聞きました。

「もともと歴史が好きだったのですが、歴史文化を未来に生かす仕事がしたいという思いが高じて、社会人になってから学芸員の資格を取りました。学芸員として働く場を探していて出会ったのが、金ケ崎町の地域おこし協力隊です。町の歴史文化を活用する任務で2014年から3年間、町の子どもたちに『千貫石太郎』というキャラに扮して歴史を教えたり、ラジオやイベントに出演したりしました。任期後も町に残りたい気持ちはあったのですが、そのときは事業を興すビジョンが見つけれず一度東京へ戻りました。博物館で働きながら大学院に通い、研究のために金ケ崎を毎月訪れる日々を過ごしていました。その中で、金ケ崎の人との縁をより強く感じたことや、大学院での出会い、起業した友人との交流から金ケ崎で起業するイメージを得られたことを機に、2019年に移住を決意。この古民家を譲り受け金ケ崎に戻って来ました。

「永では本来は民泊も行う想定でしたが、コロナ禍で今はストップしています」と話す岩隈さん。「永」の運営のほかにも、新たな地域おこし協力隊の受け入れを行ったり、二日町のエリアリノベーション携わったりと八面六臂の活躍を見せています。「二日町は歩いてワクワクできるエリアにしたい。カフェや店を出したい若者のためのチャレンジショップも作る予定」と熱が入ります。「今はリモートで出来ることが増え、金ケ崎にしながら様々な選択肢があります。農産物や古民家など起業のために活用できる資源もたくさんあります。町の外との関わり方も、移住だけではなく事業やワーケーション、旅行に来るファンなど多様です。若い人たちに、どこにいても自分らしい生き方や働き方が出来ることを知って欲しい。私たち大人が可能性や選択肢を見せる役割を担いたいと考えています」と話してくれました。

1. 「千貫石太郎」に扮して子どもたちに歴史文化を伝える、地域おこし協力隊時代の岩隈さん
2. カフェでは岩隈さんの弟がシェフを務め、日替わりランチなどを提供
3. 高い天井に巡らされた梁と囲炉裏が印象的



お客さんとの交流を、喜びとやりがいに

## 仙台からUターン起業、 金ケ崎初のカフェ



金ケ崎町出身の朝倉秀佳さんが雑貨とカフェの店「KICHI.」を開いたのは2016年。店への思いや、町の空き店舗活用補助金を活用して起業に至った経緯を伺いました。

「金ケ崎に初めてできたカフェの店でしたので、オープン当初は自分の想定をはるかに超える数のお客さんに来ていただいて、食器が足りない、備品が足りないと、てんてこ舞いだっことを思い出します。雑貨とカフェの店なので、店は1つですがやることが倍あって、今もとても忙しい日々を過ごしています。その分お客さんに『美味しかった』とか『この雑貨可愛いね』と声をかけてもらったときの喜びは大きいですね。店では、こだわりの深煎り焙煎で体に良い成分に注目したコーヒーを出したり、なるべく地元野菜や県産肉を料理に使っています。体に良いものを出すように心がけていますし、それが当たり前出来る店にしたいと思っています」と朝倉さん。現在は店舗の2階も使ってインテリアも取り扱ったり、アクセサリーや工芸品のワークショップを開いたりもしています。

「店を開く前は仙台で働いていました。仙台では毎日の生活の中にカフェがあって、仕事終

わりに気持ちをリセットしたり、ゆっくりと過ごせる場所になっていました」と朝倉さんは話します。実家がある金ケ崎にも、そんな場所が必要なのではと感じたのだそう。仙台で働きながら起業準備を進めつつ、金ケ崎にUターンした翌日にカフェオープンを果たしました。店舗の場所選びから内装の打ち合わせ、備品の調達なども手掛けつつ、補助金活用についての相談のために町の役場にも通う日々を過ごしたといいます。「役場ではどんな制度があってどうすれば補助金を使えるのかを、丁寧に相談に乗りながら対応してくれました。金ケ崎町は、空き店舗を活用すれば物件が安かったり、都会と違って駐車場の問題もほぼ無く、役場や商工会の人たちも親身になって情報を教えてくれたりするので、女性の起業にとっても優しい町だと感じています」と朝倉さん。「お客さんや地元の人にも恵まれている町だと思います。自宅で採れた野菜を差し入れてくれたり、店がヒマなときを見計って遊びに来てくれたり、ととても温かいんですよ。金ケ崎が大好きです」と笑いました。



zakka+cafe KICHI.  
雑貨カフェ キチ

朝倉秀佳さん(中央)が金ケ崎町三ヶ尻に開いた雑貨とカフェの店。秀佳さんは三姉妹の長女で次女の及川裕佳(右)さん、三女の朝倉里佳(左)さんがスタッフとして一緒に働いています。



zakka+cafe KICHI.

三ヶ尻荒巻横道上80

東京で買い付けたこだわりの雑貨と、金ケ崎食材を取り入れたカフェ



SUGOSU HITOTOKI

西根古寺133-1

工務店が建てた体感ルームで、町内産食材のケーキや食事を提供します



おかず家 煮心 nico

西根舞田35-1

日替わりメニューのほか、唐揚げや煮物も人気。親子で営む惣菜のお店







地域で支え合う子育てサポート

## ファミサポかねがさき

金ヶ崎町が取り組む子育て支援の1つ「ファミリーサポート」、通称「ファミサポ」は、子育てを手伝ってほしい「おねがい会員」と、子育てを手伝ってくれる「まかせて会員」を「ファミサポかねがさき」がつなぐ会員制の子育て支援ネットワークです。町の委託を受け、社団法人金ヶ崎町社会福祉協議会が運営しています。

利用方法は簡単。事前登録をしていれば子どもを預かってほしいときにファミサポに連絡。ファミサポが登録しているまかせて会員にその依頼をつなぎます。1時間の短時間から利用でき、例えば「上の子どもの学校行事がある」「自身が通院する」などのほか、「美容院に行きたい」「ちょっと買い物に出かけたい」「家の片付けをしたい」などどんな理由でもOK。子育てや家事に疲れた時のママやパパのリフレッシュのために利用する人も多いそう。

まかせて会員は町内に暮らす子育て経験者で、会員登録時と年に1回、救命講習を含む研修を受けています。おじいちゃん・おばあちゃんとの同居やご近所付き合いが減っている昨今、家族以外の大人と触れ合う機会は子どもの社会性を育むのにも一役買っています。また子どもを預けるママやパパにとっても、子育ての先輩であり地域をよく知るまかせて会員さんは、



子育てをはじめいろいろなことを相談できる頼もしい存在です。

転勤で金ヶ崎町に来たママは、「知り合いもいなく、ほぼワンオペ状態で子育てしていた私にとってファミサポは本当に助かる制度です。まかせて会員さんに、子育ての悩みを相談したり、病院やおすすめのスーパーを教えてもらったりと頼りにしています。まかせて会員さんとは初回に必ず顔合わせを行い、その後は同じ方が受け持ってくださいることが多いので子どもたちも慣れ、安心して預けられます」と話します。

地域に暮らす住民同士が支え合うファミリーサポート制度。ぜひ気軽に利用してみてくださいね。

【問い合わせ】金ヶ崎町社会福祉協議会  
電話0197-44-6060 FAX0197-44-6106  
(月～金曜、9時～17時)

1. 子育ての先輩でもあるまかせて会員はママにとっても頼りになる存在です
2. 預かりは自宅のほか公共施設を利用する場合も
3. ファミサポの開設時からまかせて会員を務める坂田礼子さん





「みらいのたね」  
ライター講座

ウェブサイト制作に参加する中高生を対象に、自分たちが取材した内容から記事を作成するための講座を開催。プロのライターを迎えて記事の構成などを学びました。

地域の身近な大人たちを、中高生ライターが取材します！

## 金ヶ崎ミライラボ事業 「みらいのたね」



金ヶ崎ミライラボは、金ヶ崎町における子どもを育てるための考え方です。ミライラボの事業を通じて、子どもたちは「自分なりの未来」を描く力を育むために様々なアプローチの学習や体験を行います。そのうちの1つが、地元の中高生が作るウェブサイト「みらいのたね」です。中央生涯教育センターの松本浩和さんに、ミライラボについて伺いました。

「高度経済成長期などは、鉄腕アトムやドラえもんのような『未来』をみんなが共有した時代だったと思います。現在は様々な価値観にあふれ、皆んなが同じ未来を描く時代ではありません。多様な時代に自分なりの未来を考えて欲しい」と松本さんは語ります。松本さんはミライラボ事業を構想する中で、将来の進路希望はあるもののどこか不安そうな中学生や高校生が多いと感じたそうです。子どもたちが未来を描くために、地域で働く身近でリアルな大人たちと接する機会を作り、多様な大人の価値観や考え方を知るきっかけとなればと考えたことから、「みらいのたね」の計画がスタートしました。

近年、学校教育の中でも地域の探究学習が増えていきます。「学校の先生から、子どもたちの調べ学習に協力してくれる、こんな仕事をしている人を知りませんか？」と相談を受けること

があります。それならばいっそ、地域の大人のデータベースを中高生たちに作ってもらってはどうかと思いました」という松本さん。この試みに、ウェブサイト制作や取材編集の仕事に興味のある中高生7名が手を挙げました。プロのライターを講師に迎えて取材の方法を教わったり、実際にインタビュー取材に出向き、テープ起こしを体験したりしながら、リストアップされた町内の大人30名ほどの取材を行いました。

「カフェに行ったことがないから、カフェを取材先に選んだ子もいます。子どもたちの体験が増えるというのは、この企画の意義の1つです。取材される大人もまた、学生相手だと丁寧に話してくれるものです。中高生のリアルな感想を記事にしたいですし、今後も継続していきたいと思っています。将来的にはイベントや企業の情報も載せたい」とのこと。



みらいのたねHP

1. 中学生3名と高校生4名が参加したライター講座の様子
2. 中央生涯教育センターの松本浩和さん
3. 県内で活躍するプロのライターを講師に迎えました
4. 記事の構成や文章づくりに真剣な参加者たち



2



3



4

金ヶ崎中学校の生徒による「まちあるき学習」

## 地域を学び、未来を考える



### まちあるき学習

金ヶ崎中学校の3年生が地域を歩き、地域の歴史や今を知り、未来について考える学習活動です。地域に関心を持つことで町のためにできることを考える人が育っています。

金ヶ崎中学校のまちあるき学習は、自分の未来を描く力を育むことを目的とした「金ヶ崎ミライラボ事業」の取り組みのひとつです。これは、中学生が地元の大人たちにインタビューなどをしながら出身地域を歩く活動で、平成29年に一部の生徒を対象に開催したのち、平成30年からは中学3年生全員が参加し、町内を6地域に分けて開催されています。中央生涯教育センターを中心に町の職員なども総力を結集する一大事業で、中学生20班に対して、まちあるきの見守り等を行うスタッフが40名。町では事前に地域に出向き、案内人役の地域の方や、見学先の人たちに協力のお願いと打ち合わせを行います。

「大変な事業ですが、やりがいがあります」と中央生涯教育センターの松本浩和さんは語ります。「まちあるきで出会う地域の大人は、歴史の話や昔のことはたくさん話してくれます。それに比べて、『今』のことを語る人は少ないと感じていました。未来について考えるためには、『今』の解像度を高めることが必要です。子どもたちの学びはもちろん、大人たちにも『今』のまちについて考えてもらうきっかけになるのが、まちあるき活動だと思います」。実際に、町では大人たちも子どもたちに触発されて地域について改めて調べたり、子どもを育てる

意識で丁寧に接してくれる人が多いと言います。

まちあるき学習の後、中学生たちは地域の歴史や今の地域について整理します。そしてその内容から地域の課題や未来の姿を考えてまとめ、文化祭で発表することになります。松本さんは、「子どもたちに自由に好きな未来を想像してもらおうと、色々な意見が出てくるのでとても面白いです。この活動を高校生になってから課題学習に繋げる人もいます。地域に関心が向くことで、町のためにできることを考える人が育まれていると感じます。金ヶ崎を盛り上げるために駅前での雪明かりを企画する高校生が出てきたり、大人になって町内でマルシェを企画した人もいます。金ヶ崎町は人口が1万5千人ほどの小さい町ですが、その分一人ひとりの子どもたちの成長を見守って関わっていくことができます。ミライラボ事業は、子どもたちと町未来を考える壮大な『未来実験室』です」と話してくれました。

- 1-2. 地元の人から地域の歴史について学ぶ
3. 町内のドローンスクールで利活用について学ぶ
4. 農業の現状について学ぶ





ダニエル・デグラスさん  
岩手大学で学んだのち盛岡市でALTとして勤務。一度日本を離れるも震災を機に岩手で働きたいと考え、平成23年8月金ケ崎町に赴任。平成26年からは町の正職員として英語指導にあたる。

子どもたちの英語教育に携わって10年

## 日常に英語がなじむ、 英語教育の町



「英語教育の町」としてグローバルなコミュニケーション能力の育成を目指している金ケ崎町。幼稚園や保育園にもELT（外国語指導助手）が訪問して、子どもたちと遊びながら英語にふれる機会を提供しています。金ケ崎町に平成23年からELTとして赴任し、現在は町教育委員会の英語指導員として子どもたちの英語教育を主導しているダニエル・デグラスさんに、金ケ崎の英語教育と子どもたちの学びについて伺いました。

「幼い頃から英語にふれている金ケ崎の子どもたちには、英語への苦手意識はあまりありません。むしろ英語が出来るという自信を持っている子が多いです。自発的に『英語ごっこ』で遊ぶ子どももいますし、話したい、聞きたいという興味や姿勢がよく育っています。小学校高学年で3人称や過去形など難しい文法も学びます。毎年5年生になると学習発表会で英語劇にもチャレンジする学校もあるんですよ。町内の英語の授業プランは私が作成しており、毎週ELTが集まって授業のアイデアを出しながら単元ごとの打ち合わせをした上で、全ての小学校で同じ内容を学んでいます。中学生で英検2級を受けるような子も出ています。英検2級というのは十分に会話ができるほどの英語力です」。

町の英語教育の取り組みについては、次のように語りました。「私が金ケ崎町に来た10年前と比べると、子どもたちの英語力は大きく変わったと感じます。町では平成21年度に幼児期からの英語活動が始まりました。平成26年度には、岩手初の国の教育課程特例校指定を受けて、町内すべての小学校で1年生から英語の授業がスタートしています。令和2年度には全国で小学校3年生からの学校英語がスタートしましたが、金ケ崎の英語教育の取り組みは非常に先進的です。また、中学生を対象に海外研修を行っていますが、家庭の負担金が40万円ほどになるにも関わらず、毎年20～30名が応募します（令和2、3年はコロナ禍で中止）。町の取り組みも素晴らしいですが、親の教育への思い、そして子どもたちの学びたい思いの強さを感じています。学校外でも小学生対象のグローバルキャラバンや、中学生向けのイングリッシュDojoに多くの応募があり、子どもたちは町にいながら様々な機会を得て英語に触れています」。

1. ダニエル先生とのやりとりはもちろん英語です
- 2-3. 歌やゲーム、遊びを交えて使える言葉や表現を増やします
4. 幼稚園でも楽しく英語活動をしています



2



3



4

地域おこし協力隊

及川俊哉さん

おいかわしゅんや

金ヶ崎町出身。高校卒業後、民間企業に就職し、カスのメンテナンスや営業職を経験。協力隊の採用を契機に千葉市からリターン。若者で金ヶ崎を盛り上げる団体「Life」の代表。



「軍馬の郷」の賑わい復活へ！

## 二日町エリアリノベーション



令和3年10月30日に開催された「二日町 Umaiichi」。明治時代に陸軍軍馬補充部六原支部が設置された二日町エリア。多くの人や馬が行き交っていたという当時の賑わいを復活させ、エリアの新たな魅力を掘り起こし発信したいと町内外の有志が企画したイベントです。軍馬の郷六原資料館、二日町公民館を会場に、町内の飲食店や野菜や雑貨の販売店、工芸ワークショップなどが出店。音楽ライブやパフォーマンスも繰り広げられました。

町の地域おこし協力隊として二日町エリアリノベーションに携わる及川俊哉さんが、イベントに際して地元の同級生に声をかけたところ、予想を上回る20名近くの賛同者が集まりました。チャレンジショップの出店やイベントの運営を通じて、地元の若者たちがまちづくりに関わっています。令和4年には同エリアに常設のチャレンジショップ（シェア店舗）がオープン予定。若い世代の起業や挑戦を応援し、活気あるまちづくりを目指していきます。

### 地域おこし協力隊とは…

都市部から地方へ移住して、地域おこし活動に取り組む方を、自治体が「地域おこし協力隊」として委嘱する制度です。隊員は一定期間、地域に居住して、住民と関わりながら、新たな視点や自分のスキルを活かして、地場製品の開発や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行います。

1-7. 令和3年10月に開催された「二日町 Umaiichi」の様子。趣旨に賛同した地元の若者たちがイベントを盛り上げました



基幹産業の農業を盛り上げ、金ヶ崎ブランドを広くPR！

## アスパラガスの 作付拡大&ブランド振興



1. 太くて甘みのある町内産アスパラ
2. アスパラの収穫体験を楽しむ子どもたち
3. アスパラと玉子のアスパラクリームカルボナーラ
4. アスパラのベーグルサンド
5. アスパラジェラート

春から初夏にかけて旬を迎える金ヶ崎町のアスパラガスは、太くて甘みがありシャキシャキとした適度な歯ごたえで、味も食感も良いと評判です。町では米農家の春先の収入源になる組み合わせ作物として、アスパラガスの作付拡大とブランド化を推進しています。

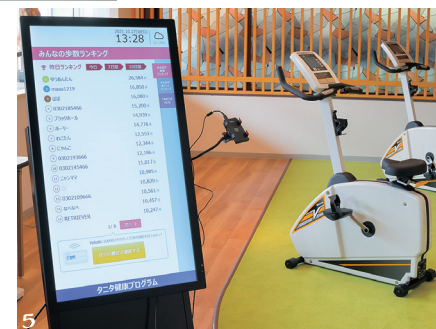
例年5月には「農業まつり・アスパラ収穫祭」を開催して、アスパラガスの販売や試食、PRなどに力を入れてきました。コロナ禍に見舞われた令和3年度には、町産アスパラガスの消

費拡大とPRのためのキャンペーンを展開。キャンペーン期間中は、産直施設でのアスパラガス購入に際して送料を町が負担したほか、町内の飲食店ごとに工夫をこらしたアスパラガス料理を提供。11店舗の協力を得てピザやパスタ、天ぷら、ジェラートなど様々なアスパラガス料理が考案されました。このキャンペーンの試みはとても好評で、今後も様々な工夫をこらしたアスパラガスの産地PRを行なっていくことにしています。



健やかで幸せな人生のため、歩くことを推奨中

## 健幸ポイント事業



- 1-2. 健康増進運動教室の様子
3. 健幸アンバサダー養成講座の様子
4. ポイント対象事業として開催したノルディックウォーキングフェスタin金ヶ崎
5. 「健康の駅」には測定器具などが設置されています

いきいきと健やかに暮らせるまちづくりのために金ヶ崎町が取り組むのが、歩くことで健康づくりを行う「健幸ポイント事業」です。参加する町民は専用の活動量計やスマホアプリで歩数を測定します。保健福祉センターと「健康の駅」には体組成計などの設備が整い、体組成測定も出来る拠点になっています。年齢に応じて設定された歩数等の目標をクリアしたり、町の健康づくり活動に参加することでポイントが加算されていき、貯まったポイントは町内で使

える最大6,000円分の商品券と交換できるシステムになっています。

健幸ポイント事業は(株)つくばウェルネスクーサーチ、(株)タニタヘルスリンク等と町が共同で行っている事業です。歩くことや外出の機会を創出することで健康づくりを促進し、将来的な医療費や介護費用の軽減や、コロナ禍で重要視されるようになった人と人とのつながりの維持を目指していきます。



循環型社会の形成に取り組む、田園環境保全の町

## リサイクル推進と自然環境保全



- 1-2. 地元の高校生によるクリーン作戦
2. 自然豊かな環境を守る
3. 小型家電回収ボックス
4. リサイクル地区学習会

快適な暮らしと環境にやさしいまちづくりのため、金ヶ崎町ではごみの減量やリサイクルに積極的に取り組んでいます。各地区ごとにリサイクルごみの回収日には町の環境監視指導員が巡回指導を行うなど、ごみの分別の徹底や資源ごみのリサイクルに町全体で取り組んできた結果、金ヶ崎町は家庭ごみの量が岩手県内で2番目に少ない自治体となっています。

平成28年からは町役場のほか各地区の生涯教育センターなどに小型家電専用の回収ボッ

クスを設置しています。パソコンを含む小型家電をリサイクルする場合には、町の協定事業者による自宅回収も無料でっており、貴金属やレアメタルなどの有用金属を多く含む小型家電等の再資源化の促進に力を入れています。

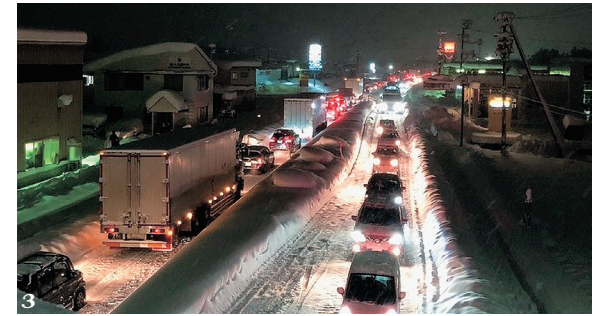
また、地球温暖化防止のための二酸化炭素排出削減に向けて、グリーンカーテンや夏至ライトダウンなどの「ちょうみんグリーンアクション」といった、自然環境保全の意識向上にも取り組んでいます。





工業団地のアクセス向上と再開発による定住促進へ

## 国道4号四車線化と 周辺開発



1. 国道4号四車線化に伴い、開発が見込まれる地域
2. 車線改良事業が完了した国道4号三ヶ尻交差点
3. 令和2年12月の大雪で渋滞する国道4号
4. 利便性向上のため、周辺環境の整備が進められている六原駅

古い空き家が建ち並び、地域住民から再開発の要望が出されていたJR六原駅前エリア。金ヶ崎町では地権者やJR東日本との協議を進め、令和2年から空き家の解体を行いました。令和3年以降は、駅前駐車場や国道4号に接続する道路の整備に着手していきます。

町内の国道4号の四車線化は平成29年に事業化、令和2年度末に着工しています。整備により対象区間の旅行速度は24.7km/hから39.8km/hへと、約6割もの向上が見込まれて

います。工業団地へのアクセス向上による産業振興や、大雪時の渋滞等の緩和、安全な交通の確保を目指し、町内の自治会と企業等が協力しながら事業が進められています。

明治時代には軍馬補充部が置かれた六原地区への玄関口とされていたJR六原駅。国道4号四車線化の動きをとらえ、交通アクセスの向上を図ることで、地域住民の駅として、そして工業団地への入り口としての利便性向上に繋がっていきたいと考えています。